

7. 車両の安全性向上

(1) 車両の安全対策

▶運転士異常時列車停止装置

運転士の体調急変時などにおける安全を確保するため、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキが作動する装置で、運転台のある全車両に設置しています。また、車掌室には、緊急時に車掌が扱う非常ブレーキスイッチも設置しています。



▶列車運転状況記録装置

事故・トラブルが発生した場合に、その原因究明や再発防止策の立案に役立つために、列車の速度や位置、時刻、運転士のハンドル操作状況、ATSの動作状況などを記録する装置を全列車に設置しています。

▶ドライブレコーダー

事故等の発生時に、必要に応じて現場の状況を確認するために設置しています。全編成に設置しています。



ドライブレコーダーで撮影した画像

▶ホーム検知装置

扉操作誤りなどにより、ホームがない場所で扉を開けることによる転落事故を防止するため、京阪線の3000系・10000系・13000系および6000系、8000系の一部の編成、大津線全編成、鋼索線車両にホーム検知装置を設置しています。



▶車両の転動防止ブレーキ

勾配のある駅などで停車しているときに扉を開けた状態で車両が転動するのを防止するために、転動防止ブレーキ機能を新設しています。2020年度末時点で京阪線の運転台のある車両187両中178両に設置しており、引き続き対象車両への設置を進めています。大津線は、運転台のある全車両に設置が完了しています。

▶連結面間転落防止装置

乗車時にお客さまが誤って車両の連結面間に転落する事故を防止するための装置です。京阪線全車両に設置しています。



▶戸挟み検知精度の向上

扉に人や物が挟まっていることによる事故を防止するため、京阪線と大津線の車両（一部車両を除く）で戸挟み検知精度の向上を図っています。また、細い杖等の扉挟み込みによる事故を防止するため可視光レーザーを照射し検出する装置を、2020年度以降に導入した13000系新造車より採用しています。

▶車掌知らせ灯の視認性向上

扉が全て閉まったことを確認する車掌知らせ灯の見誤りによる事故を防止するために、車掌知らせ灯の大型化、レンズ周囲につや消し黒色化粧シートの貼り付け、高輝度タイプのLED採用など、車掌知らせ灯の視認性の向上を図っています。



▶非常脱出ハシゴ

非常時におけるお客さま避難誘導のさらなる迅速化を図るため、乗務員室に非常脱出ハシゴを設置しています。2020年末時点で京阪線全車両及び大津線800系車両の乗務員室に設置が完了しています。



(2) より安全快適な車両を目指して

▶新型車両13000系の導入

安全性の向上やバリアフリー対応、環境への配慮に主眼をおいて開発し、2020年度末時点で101両導入しています。オフセット衝突（車体前方の一部のみに負荷が加わるような衝突）対策など車体強度を向上させたほか、事故や急ブレーキ時における車内での事故防止策を施しました。また、車いすスペースや液晶式車内案内表示器な

どを設置し、荷棚の高さを低くするとともに、乗降口の扉端部と足元などにオレンジ色のラインを設けるなど、バリアフリー対応を充実しました。



13000系(左)とその車内(右)

▶6000系車両のリニューアル

2013年度からバリアフリー対応やインテリアのグレードアップ、車内案内表示器の設置によるサービス向上などを目的にリニューアル工事を進めています。

あわせて、老朽化した制御装置などの機器を改修することで、故障に対する予防保全を図っています。2020年度末時点で112両中80両のリニューアル工事が完了しています。



6000系(左)とリニューアル後の車内(右)

▶8000系車両のリニューアル

老朽化した制御装置などの機器を改修することで、故障に対する予防保全を図っています。

また、車内灯や行先表示器をLED化することで省エネと保守の省力化を図っています。2020年度末時点で80両中32両のリニューアル工事が完了しています。なお、2019年度竣工車両よりホーム検知装置の搭載も行っています。その他、8000系車両では窓ガラスの全てに遮熱・断熱効果のある機能性フィルムを貼付け空調効率の向上を図っています。



8000系(左)とLED化された行先表示器(右)